

試験研究評価シート（中間）

評価の種類	中間評価		担当課		
課題名 (研究テーマ)	徳島県内における陸域から海域へ流入する栄養塩の実態調査について		研究者名	(正) 管生 伸矢 (副) 出羽 知佳	
研究期間	平成29～31年度	予算額 1,400 (千円)	今年度 500 累計 1,000	予算種類	国補・ <input type="checkbox"/> 県単 その他()
必要性	<p>瀬戸内海では高度経済成長期に富栄養化が進み、赤潮等による漁業被害が頻発したことから、昭和48年に瀬戸内海環境保全臨時措置法（現特別措置法）が施行され、CODの他、全窒素・全リンの総量規制など、「きれいな海」を取り戻す各種施策が進められてきた。</p> <p>一方で、徳島県をはじめ沿岸府県では、近年、ノリやワカメなどの色落ちによる漁業損失が問題となっており、海域における栄養塩類、特に溶存態無機窒素（以下DIN）の減少が主な原因と推測されている。</p> <p>平成27年10月に改正施行された瀬戸内海環境保全特別措置法においても、その附則に、「栄養塩類の減少等の実態と水産資源に与える影響に関する研究に努め、5年後を目途に、瀬戸内海における栄養塩類の管理の在り方について検討を加える」旨が規定された。</p> <p>海域における栄養塩類の陸域からの流入は、栄養塩類の主要な供給源の一つであるため、その実態を調査することは、今後適切な管理を目指していく上で重要である。</p>				
目標	<p>陸域からの栄養塩類、特にDINに注目し、その発生状況に関するデータを収集する。</p> <p>これらを、県の水産研究部門の調査研究データも参考にし、徳島県沿岸域におけるDINの実態に関する知見を集積し、国の「瀬戸内海における栄養塩類の管理の在り方についての検討」に備えることを目標とする。</p>				
研究内容	<p>① ノリ・ワカメ漁場付近に流入する河川についてDIN濃度を調査し、測定頻度等を検討する。</p> <p>② 河川の上流から下流へのDIN濃度の実態調査を行う。</p> <p>③ 下水処理施設による管理運転の効果を調査する</p> <p>④ 陸域から海域への影響の解析を検討。</p>				
手法	<p>① 吉野川水系等を中心に季節毎・降雨時等のDIN濃度について公定法に基づき分析する。</p> <p>② 下水処理施設等の排水に含まれるDIN濃度について公定法に基づき分析する。</p>				
成果	<p>① 平水時・出水時のDINの負荷量と各態窒素の構成比を調査し、データの解析を行った。</p> <p>② 河川の上流から下流へのDIN濃度の変化を調査した。</p> <p>③ 吉野川及び、今切川の季節と雨量によるDIN濃度の変化を調査した。</p>				
その他	<p>【参考】</p> <p>① 平成28年5月、県（水産振興課）から水産庁等に対し、「豊かな瀬戸内海を目指した栄養塩管理等について」を政策提言。</p> <p>② 前年度より、旧吉野川流域下水道処理施設「アクアきらら月見ヶ丘」における管理運転に係る実証実験が開始されている。（農林水産部・県土整備部・県民環境部の合同）</p>				